

コミュニティ壬生野 第30号



壬生野地域まちづくり協議会広報

2007(平成19)年10月1日発行

第3回壬生野まつりを成功させよう!

開催日時 10月13日(土) 午前9時~午後4時30分
10月14日(日) 午前9時~正午

開催場所 壬生野小学校体育館

プログラム



項目	内容
応募作品の展示	絵画、写真、工芸、墨絵、生け花、手芸、盆栽、俳句、川柳 着物リフォーム、トールペイント、型紙、保育園の部、小学生の部
チャレンジコース	模擬体験(車椅子、妊婦、肢体ハンディ、視覚ハンディ) 健康検査(体脂肪、血圧、脈拍) 模擬体験参加者に紙風船をプレゼント!
餅つき	13日限定4回、昔風の餅つきを行います。 お米は、地元産の新米です。 サロンコーナーで食べてください 第1回: 10時 第2回: 11時 第3回: 14時 第4回: 15時
綿菓子	綿菓子づくり
即売会	野菜、玉子など(売切れしだい終了)
異文化との出会い、交流	14日限定 10時~正午 ブラジル人の楽器演奏と交流 小ピザの振る舞い チヂミ焼き体験 民族楽器の体験
ハンセン病パネル展示	ハンセン病、長島愛生園に係るパネルの展示。 ハンセン病(らい病)を患った人たちへの人権を奪った長い歴史を知り、今私たちは考える。9月24日人権同和委員会主催で岡山県の長島愛生園に視察研修をしました。

壬生野地域まちづくり防災講演会開催



去る、9月5日、壬生野小学校体育館において、三重大学工学部准教授の川口淳先生を講師に迎え、防災講演会を開催しました。

この講演会は、壬生野まちづくり協議会が、防災特別実行委員会を設置したことを契機に、地震等の災害による「生命の危機」や「どうしようという不安」を少しでも解消することを目的として開催し、各地区（団体）から65名のご参加をいただきました。

“「防災」ではなく「減災」を目指そう”、地震などはそれ自身を防ぐ事は困難ですが、災害が発生しても被害を最小限に食い止めることは、可能です。そういった活動を「減災」活動といい、災害発生時はもとより普段からできる事をあらかじめやっておく事が大切です。

ご講演では、今までの震災の映像やそのときの震災のデータを映像にして災害状況、震災後の避難場所でのことなど分かりやすく説明をしていただきました。

講演後の自主防災実行委員会事務局での話し合いでは、震度6以上の地震があったとき、「電気が使えない、水道が使えないことが考えられるのではないだろうか」、「交通機関の主要となる名阪国道などの道路の遮断、橋の倒壊などがあったとき、この地域は孤立していく、そのとき一番大事なのは水の確保ではないだろうか」、「水の確保のためには、使える井戸の場所を認知しておくなどの対策が必要とではないだろうか」また、人命救助の対策として、「三軒両隣のおうちのことを普段から知り合える関係にあることが大切ではないか」さらに話し合いでは、個々の家での日常いつも心がけている事が出されました。「風呂の水はためておく」、「家具は倒れないようにしておく」、「必要品は、枕元やベッドの下や近くにおく」など実施しているという声もありました。こうした、意見交流、情報交流も大切な事だと思えます。

壬生野地域まちづくり協議会では、防災実行委員会を組織しました。

各地区（団体）において自主防災組織長（区長）を中心にして、各地区（団体）の状況に応じた取り組みを行っていきます。一つは、各地区（団体）の防災の情報交換、二つは、防災講演会、三つは、防災訓練および防災アンケートの実施、四つは、水の確保や避難所を考慮した絵地図づくりを進めていきます。



国立療養所長島愛生園訪問研修から

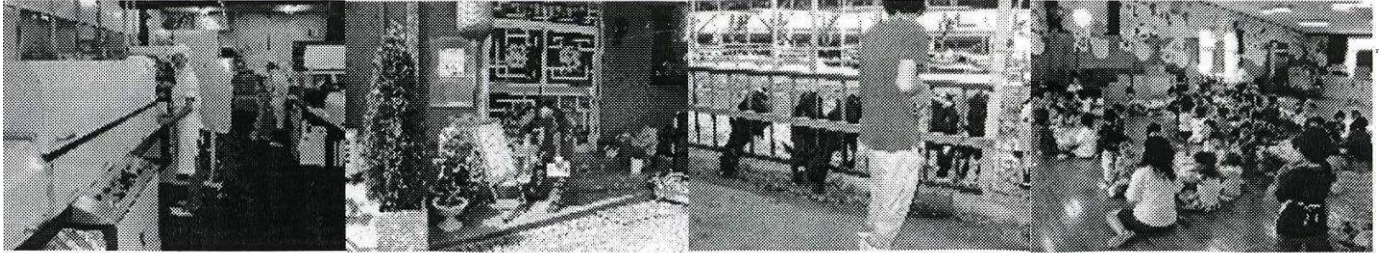


去る9月24日（月）、壬生野まちづくり協議会が募った参加者23名が、岡山県にあるハンセン病の国立療養所「長島愛生園」を訪問しました。この訪問の目的は、ハンセン病患者に対する過去の誤った隔離政策やハンセン病に対する根強い偏見が今も残っていることを知るとともに、様々な人権問題に触れ、自分の差別意識を見直し、壬生野地域の啓発につなげていくことを目的としています。

片道約4時間のバスの車中でのビデオ学習に始まり、愛生園では、三重県人会の方からの聞き取り、資料館や施設の見学をしました。詳しくは次号で紹介いたします。

霊峰中学校の労働体験学習から

9月10日から14日の5日間、霊峰中学校の2年生54人が、校区内の事業所などで労働体験学習を行いました。生徒にとって「働く」は、家族の姿などから身近なことであっても、「職場」については、日常の生活では体験する機会がない未知の世界です。緊張した面持ちで事業所に向いたことでしょう。実際、体験を終えて中学校に戻った9月18日、仕事内容や「つらかった」「うれしかった」場面、エピソード、ハプニングなど、様々な会話が教室を飛び交いました。この労働体験が単なるイベントではなく、生徒には自分の将来に対し夢をはせ希望をもって生きていく契機となり、また、保護者や地域社会が学校とつながる出会いの場になったことだと思います。



イーグル製菓

瑞福祥

山岸会（養牛）

壬生野保育園

壬生野小学校で運動会が開催される

9月15日（土）に、壬生野小学校運動場において、運動会が行われました。心配された天候ですが、途中中断することもありましたが、プログラムを入れ替えるなどしながら、全競技実施されました。

1・2年生は80m、3～6年生は100mの徒競走、各学年の親子競技、低中高学年に分かれての表現運動とリレー、全校児童のつなひき、さくら会競技『タイヤでゴー』、色別応援合戦など、楽しい競技がいっぱいでした。各地区のテントからは、家族の人からの応援があり、子どもたちは練習の成果を精一杯発揮しようとがんばる姿が見られました。



1・2年生の表現『勇気100%』



5・6年生の表現



白組が優勝した「綱引き」



4色に分かれての「応援合戦」



3・4年生の表現

『ソーラン2007』



4年生の親子競技

「親玉子玉わっしょいわっしょい」

ヤマギシだより

梅ジュース

今回の壬生野まつりには、例年の生産物に加えて梅ジュースを出品する予定です。

今年の6月、大豊作の梅の実を砂糖と一緒に大樽に漬け込みました。2ヶ月たって梅ジュース原液の完成です。どうぞご賞味ください。

お知らせ

秋のバラの見頃は10月20日ごろから11月初旬の見込みです。



お礼とお詫び

先月の梨狩りにお申し込み、ご参加いただき、ありがとうございます。予想より早い時期に熟してしまい、日程を繰り上げさせていただきました。その後にお申し込みいただいた方々には大変ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

勝手神社神事踊り

山畑の勝手神社に伝わる神事踊りは、毎年10月10日直前の日曜日〔今年は7日〕の例祭日に行われる、悪霊退散・雨乞い・豊作などの祈りを捧げるまつりです。

鞆鼓(かっこ)と呼ばれる太鼓を胸にかけ、頭に鳥の尾の飾りをつけ、細い竹に色とりどりの紙の花を張った《オチズイ》を背負った姿で、音楽に合わせてゆるやかに舞うさまは大変優美です。江戸時代中期に始まったこの踊りは、昭和38年1月11日に県の無形文化財、昭和46年11月1日に国の民族芸能選択に指定されました。

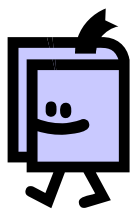
前日の宵宮では男子小中学生、大人の男性による角力(すもう)が奉納されます。夜店もあります。(有料)



ときめきサロン

土曜日の午前中は、まちづくり協議会の事務所(壬生の里 2階)へお出かけ下さい。図書の貸し出しをします。お茶やコーヒーを飲みながら、楽しくおしゃべりなどもしませんか。是非、子どもさんも一緒に“くつろぎの場”としてご利用下さい。

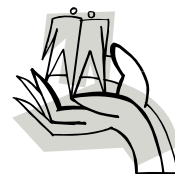
10月のお世話をさせて頂く担当者は、下記の通りです。



10月 6日(土)	8:30~12:00	森川幸生、五百田正一
10月13日(土)	8:30~12:00	亀井亮治、北村節子、河野實
10月20日(土)	8:30~12:00	福森晋、大畑昭雄、井澤豊美
10月27日(土)	8:30~12:00	山下謙一郎、前畑征彦、福田律子

編集後記

人には様々な幸せの形があるけれど、それは、その人の受けとめ方、感じ方、心の持ち方によって、様々に変化するモノだと思う。心掛け次第と一口に言うけれど、本当にそうだと思う。私は、自分の健康に感謝している。この健康な体で、一人でも多くの人の助けになりたいと思う。(松馬小百合)



◆◆◆ご意見・お問い合わせは下記までお寄せ下さい◆◆◆

発行 壬生野地域まちづくり協議会 広報公聴実行委員会
事務局 三重県伊賀市川東1659-5 壬生野福祉ふれあいセンター内
Tel・Fax 0595(45)6270 E-mail tokimeki@ict.ne.jp URL http://www.mibuno.net